

2022年度 夏秋きゅうり 病害虫防除基準

JA山形おきたま きゅうり振興部会

JA山形おきたま きゅうり振興部								
時 期	対象病害虫	薬 剤 名	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効 果 使用 回数	注意事項		
育苗期	苗立枯病	オーソサイド水和剤80	800倍 灌注	は種後 2～3葉期	○ 5回	2ℓ/m ²		
	アブラムシ類	ダントツ粒剤	1g/株 株元処理	育苗期 後半	－ 1回	育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内 購入苗を定植する場合は、育苗期の使用実績を確認すること		
		ベリマークSC	※5 400株あたり25mℓ灌注	育苗期 後半～ 定植当日	－ 1回	散布量は、400株あたり 2～20ℓ (1株あたり 5～50aℓ) 育苗期及び定植期の灌注は合計1回とする。		
定植期	アブラムシ類	ダントツ粒剤	2g/株 植穴処理土壌混和	定植時	－ 1回	育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内 購入苗を定植する場合は、育苗期の使用実績を確認すること		
	斑点細菌病	オリゼメート粒剤	5g/株 植穴土壌混和	定植時	○ 1回	薬害防止のため、軟弱徒長苗には使用しないこと 本剤を処理する場合は植穴の土壌と十分混和すること		
生育期	つる枯病	トップジンMペースト	※4 原液	塗布	発病初期	● 5回		
	黒星病	ジマンダイセン水和剤	600倍	散布	前日	○ 3回	疫病・褐斑病・炭疽病・べと病にも適用あり	17～18℃位の低温多雨 時の発生が多くなる。
		ペンレート水和剤	2000倍			● 3回	菌核病・炭疽病にも適用あり	
		スコア顆粒水和剤	2000倍			● 3回	うどんこ病にも適用あり	
	べと病	ダコニール1000	※1 1000倍	散布	前日	○ 8回	炭疽病・うどんこ病・褐斑病・黒星病にも適用あり	肥切れ・草勢の衰えた時 に発生しやすい。 高温多湿条件で発生す るので、予防防除を徹底 する。
		ドーシャスフロアブル	※1 1000倍			○ 4回	炭疽病・うどんこ病・褐斑病・黒星病にも適用あり	
		カーニバル水和剤	※1 1000倍			● 3回	炭疽病・うどんこ病・褐斑病にも適用あり	
		プロボース顆粒水和剤	※1 ※3 1000倍			● 3回	うどんこ病・褐斑病・黒星病にも適用あり	
		ジャストフィットフロアブル	※3 5000倍			● 3回		
		ホライズンドライフロアブル	2500倍			● 3回		
	うどんこ病	ファンベル顆粒水和剤	※2 1000倍	散布	前日	● 3回	褐斑病・菌核病・黒星病・炭疽病にも適用あり	薬液が葉裏にも十分かか るようにする。
		ラミック顆粒水和剤	※2 1000倍			● 3回	褐斑病にも適用あり	
		パンチョTF顆粒水和剤	2000倍			● 2回		
	斑点細菌病	ベフドー水和剤	※2 500倍	散布	前日	○ 7回	うどんこ病・炭疽病・べと病・褐斑病・黒星病・菌核病(1000倍)にも適用あり	
		ドキリンフロアブル	1000倍			○ 5回	炭疽病・べと病にも適用あり	
		カスミンボルドー	1000倍			● 5回	うどんこ病・べと病にも適用あり	
	褐斑病	カンタスドライフロアブル	1500倍	散布	前日	● 3回	菌核病にも適用あり ※薬害防止のため展着剤を加用しない	高温多湿条件で発生する ので、予防防除を徹底す る。
		ケンジャフロアブル	1500倍			○ 4回	うどんこ病・菌核病にも適用あり	
	褐斑病・炭疽病	オーソサイド水和剤80	600倍	散布	前日	○ 5回	べと病にも適用あり	
		ダイアメリットDF	※2 1000倍			● 2回	うどんこ病・菌核病にも適用あり	
		ゲッター水和剤	※4 1500倍			● 5回	菌核病にも適用あり	
	アブラムシ類	ベネビアOD	※5 2000倍	散布	前日	－ 3回	コナジラミ類・アザミウマ類・ハモグリバエ類・ウリノメイガにも適用あり	アブラムシ類はウイル ス病を媒介するので 初期防除に努める。
		ダントツ水溶剤	2000倍			－ 3回	カメムシ類・ミナミキイロアザミウマ・コナジラミ類の適用あり	
トランスフォームフロアブル		2000倍	－ 2回			コナジラミ類にも適用あり		
コルト顆粒水和剤		4000倍	－ 3回			コナジラミ類にも適用あり		
ウララDF		2000倍	－ 3回			コナジラミ類にも適用あり		
アーデント水和剤		1000倍	－ 4回			ハダニ類・ミカンキイロアザミウマ・オンシツコナジラミにも適用あり		
ハダニ類	スターマイトフロアブル	2000倍	散布	前日	－ 1回	同系薬(スターマイトフロアブル、ダニサラバフロアブル)の連用は避ける。 コロマイト乳剤:コナジラミ類にも適用あり(1,500倍)		
	コロマイト乳剤	1000倍						
	ダニサラバフロアブル	1000倍						
	カネマイトフロアブル	1000倍						
ミカンキイロアザミウマ	アーデント水和剤	1000倍	散布	前日	－ 4回	ハダニ類・オンシツコナジラミ・アブラムシ類にも適用あり		
アザミウマ類	ハチハチ乳剤(Ⅱ)	1000倍	散布	前日	－ 2回	アブラムシ類・コナジラミ類・ウリノメイガ・うどんこ病・褐斑病・べと病にも適用あり		
ウリノメイガ	プレバシオンフロアブル5	2000倍	散布	前日	－ 3回	ハモグリバエ類にも適用あり		
	ハチハチ乳剤(Ⅱ)	1000倍			－ 2回	アザミウマ類・アブラムシ類・コナジラミ類・うどんこ病・褐斑病・べと病にも適用あり		

(○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

※1 ダコニール1000、ドーシャスフロアブル、プロボース顆粒水和剤、カーニバル水和剤は同一成分(TPN)を含むため、総使用回数は8回以内とする。

※2 ファンベル顆粒水和剤、ベフドー水和剤、ダイアメリットDF、ラミック顆粒水和剤は同一成分(イミノクダジン)を含むため、総使用回数は7回以内とする。

※3 プロボース顆粒水和剤、ジャストフィットフロアブルは同一成分(ペンチアバカルブイソプロピル)を含むため、総使用回数は3回以内とする。

※4 トップジンMペースト、ゲッター水和剤は同一成分(チオファネートメチル)を含むため、総使用回数は6回以内とする。

※5 ベリマークSC、ベネビアODは同一成分(シアントラニプロール)を含むため、総使用回数は4回以内とする。

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。

※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また発生予防を実施し、適期防除に努める。

展着剤

展着剤名	適用農薬名	使用量	説 明
アビオン-E	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	薬剤の被膜層を厚くし付着量を多くし固着性に優れる。雨前散布や保護殺菌剤散布に。
アブローチBI	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	湿展性・浸透性の効果がある。
スカッシュ	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	植物表面に広がり、均一に付着させるので、果実や葉の汚れが少なくなる。

除草剤

薬 剤 名	適用雑草名	使用量(散布液量)	使用方法	使用回数	使用時期
クレマート乳剤	一年生雑草	10a当り200～400mℓ(水量100～150ℓ)	全面土壌散布	1回	定植前(雑草発生前)
バスタ液剤	一年生雑草	10a当り300～500mℓ(水量100～150ℓ)	雑草葉面散布	3回	収穫前日まで(雑草生育期定植前又は畦間処理)

【令和3年12月22日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

2022年度 ハウスきゅうり 病害虫防除基準

JA山形おきたま きゅうり振興部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効果 使用回数	注意事項
育苗期	苗立枯病	オーソサイド水和剤80	800倍 灌注	は種後 2～3葉期	○ 5回	2ℓ/㎡
	アブラムシ類	ダントツ粒剤	1g/株 株元処理	育苗期 後半	－ 1回	育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内
		ベリマークSC	400株あたり25mℓ灌注	育苗期 後半	－ 1回	育苗期及び定植期の灌注は1回とする。散布量は、1株あたり 5～50mℓ
定植前	ネコブセンチュウ	ネマキック粒剤	20kg/10a 全面土壌混和	定植前	－ 1回	
定植期	アブラムシ類	ダントツ粒剤	2g/株 植穴処理土壌混和	定植時	－ 1回	育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内 購入苗を定植する場合は、育苗期の使用実績を確認すること。
		モスピラン粒剤	1g/株 株元散布		－ 1回	
		ベリマークSC	400株あたり25mℓ灌注	定植当日	－ 1回	育苗期及び定植期の灌注は1回とする。散布量は、400株あたり 2～20ℓ
生育期	黒星病	ベフドー水和剤 ※4	500倍	散布	前日	○ 7回 褐斑病・炭疽病・べと病・うどんこ病・斑点細菌病・菌核病(1000倍散布)・灰色かび病にも適用あり
		スコア顆粒水和剤	2000倍			● 3回 うどんこ病にも適用あり
		ベンレート水和剤	2000倍			● 3回 菌核病・炭疽病・灰色かび病にも適用あり
	べと病	ダコニール1000 ※1	1000倍	散布	前日	○ 8回 うどんこ病・褐斑病・黒星病・炭疽病・灰色かび病にも適用あり
		ランマンフロアブル ※2	1000倍			● 4回
		カーニバル水和剤 ※1	1000倍			● 3回 うどんこ病・炭疽病・褐斑病にも適用あり
		プロボース顆粒水和剤 ※1	1000倍			● 3回 うどんこ病・褐斑病・黒星病にも適用あり
		ホライズンドライフロアブル	2500倍			● 3回
	褐斑病	ケンジャフロアブル	1500倍	散布	前日	○ 4回 うどんこ病・菌核病・灰色かび病にも適用あり
		カンタストライフロアブル	1500倍			● 3回 菌核病・灰色かび病にも適用あり ※葉害防止のため展着剤を加用しない。
	褐斑病・炭疽病	ジマンダイセン水和剤 ※3	600倍	散布	前日	○ 3回 黒星病・斑点細菌病・べと病にも適用あり
		ベフドー水和剤 ※4	500倍			○ 7回 黒星病・灰色かび病・斑点細菌病・べと病・菌核病(1000倍散布)にも適用あり
		ドーシャスフロアブル ※1	1000倍			○ 4回 うどんこ病・黒星病・べと病にも適用あり
		ダイアメリットDF ※4	1000倍			● 2回 うどんこ病・菌核病・灰色かび病にも適用あり
		ゲッター水和剤 ※5	1500倍			● 5回 菌核病・灰色かび病にも適用あり
	うどんこ病	フルピカフロアブル	2000倍	散布	前日	○ 4回 褐斑病・灰色かび病にも適用あり
		アフエットフロアブル	2000倍			○ 3回 菌核病・灰色かび病にも適用あり
		ラミック顆粒水和剤 ※4	1000倍			● 3回 褐斑病・灰色かび病にも適用あり
		テーク水和剤 ※3	600倍			● 3回 褐斑病・炭疽病・灰色かび病・べと病にも適用あり
		バンチョTF顆粒水和剤	2000倍			● 2回
	菌核病 灰色かび病	ファンベル顆粒水和剤 ※4	1000倍	散布	前日	● 3回 うどんこ病・褐斑病・黒星病・炭疽病にも適用あり
		ピクシオDF	2000倍			● 4回
		ゲッター水和剤 ※5	1500倍			● 5回 褐斑病・炭疽病にも適用あり
		スミブレンド水和剤 ※5	1500倍			● 5回 褐斑病にも適用あり
	ハダニ類	スターマイトフロアブル	2000倍	散布	前日	－ 1回
		カネマイトフロアブル	1000倍			－ 1回
		コロマイト乳剤	1000倍			－ 2回 コナジラミ類にも適用あり(1500倍)
	アブラムシ類	アーデント水和剤	1000倍	散布	前日	－ 4回 オンシツコナジラミ・ハダニ類・ミカンキイロアザミウマにも適用あり
	アブラムシ類 コナジラミ類	チェス顆粒水和剤	5000倍	散布	前日	－ 3回
		コルト顆粒水和剤	4000倍			－ 3回
		ベストガード水溶剤	1000倍			－ 3回
		ウララDF	2000倍			－ 3回
	ミカンキイロアザミウマ	アーデント水和剤	1000倍	散布	前日	－ 4回 ハダニ類・アブラムシ類・オンシツコナジラミにも適用あり
	アザミウマ類	ハチハチ乳剤(調)	1000倍	散布	前日	－ 2回 アブラムシ類・コナジラミ類・ウリノメイガ・うどんこ病・褐斑病・べと病にも適用あり
	ウリノメイガ	プレバシフロアブル5	2000倍	散布	前日	－ 3回 ハモグリバエ類にも適用あり
		ハチハチ乳剤(調)	1000倍			－ 2回 アブラムシ類・コナジラミ類・うどんこ病・褐斑病・べと病・アザミウマ類にも適用あり

(○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

- ※1 ダコニール1000、プロボース顆粒水和剤、ドーシャスフロアブル、カーニバル水和剤は同一成分（TPN）を含むため、総使用回数は8回以内とする。
 ※2 ランマンフロアブル、ドーシャスフロアブルは同一成分（シアゾファミド）を含むため、総使用回数は4回以内とする。
 ※3 ジマンダイセン水和剤、テーク水和剤は同一成分（マンゼブ）を含むため、総使用回数を3回以内とする。
 ※4 ベフドー水和剤、ダイアメリットDF、ラミック顆粒水和剤、ファンベル顆粒水和剤は同一成分（イミノクタジン）を含むため、総使用回数は7回以内とする。
 ※5 ゲッター水和剤、スミブレンド水和剤は同一成分（ジエトフェンカルブ）を含むため、総使用回数は5回以内とする。
 ※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。
 ※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また発生予防を実施し、適期防除に努める。

展着剤

展着剤名	適用農薬名	使用量	説 明
アピオン-E	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	薬剤の被膜層を厚くし付着量を多くし固着性に優れる。
アブローチBI	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	湿展性・浸透性の効果がある。
スカッシュ	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100mℓ	植物表面に広がり、均一に付着させるので果実や葉の汚れが少なくなる。

除草剤

薬 剤 名	適用雑草名	使用量（散布流量）	使用方法	使用回数	使用時期
クレマート乳剤	一年生雑草	10a当り200～400mℓ（水量100～150ℓ）	全面土壌散布	1回	定植前（雑草発生前）
バスタ液剤	一年生雑草	10a当り300～500mℓ（水量100～150ℓ）	雑草葉面散布	3回	収穫前日まで（雑草生育期定植前又は畦間処理）

【令和3年12月22日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

2022年度 ハウス大玉トマト 病害虫防除基準

JA山形おきたま トマト振興部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効果	使用 回数	注意事項
育苗期	苗立枯病	オーソサイド水和剤80	800倍 灌注	は種後から 2～3葉期まで	○	5回	2ℓ/㎡
	アブラムシ類 コナジラミ類	ダントツ粒剤	1g/株 株元処理	育苗期	—	1回	マルハナバチ利用の場合は使用しない。
	アザミウマ類	※ 生育期『オオタバコガ・トマトサビダニ・アザミウマ類・ アブラムシ類・コナジラミ類』防除薬剤らんをご参照下さい。					黄化えそ病 等 ウイルス病対策として実施する。
育苗期 後半	アザミウマ類 アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類	ベリマークSC	25ml/400株	灌注	育苗期後半 ～定植当日	—	1回 《使用例》 400倍の希釈液を1ポットあたり25ml灌注する。
定植前	土壌線虫	※ 8ページ『土壌線虫』防除らんをご参照下さい。					
定植時	アブラムシ類 コナジラミ類	ダントツ粒剤	2g/株 植穴処理土壌混和	定植時	—	1回	育苗期に使用した場合は定植時には使用しない。 マルハナバチ利用の場合は使用しない。
生育期	疫 病	ランマンフロアブル	1000倍	散布	前日	●	4回
		ザンプロDMフロアブル	1500倍			●	3回
	葉かび病 すすかび病	ダコニール1000 ※1	1000倍	散布	前日	○	4回 うどんこ病・疫病・灰色かび病にも適用あり
		アミスターオブティフロアブル ※1	1000倍			●	4回 疫病・灰色かび病・斑点病にも適用あり
		シグナムWDG	2000倍			●	2回 うどんこ病・灰色かび病にも適用あり
		ブリザード水和剤 ※1	1200倍			●	3回 疫病にも適用あり
	うどんこ病	ベルコートフロアブル ※3	2000倍	散布	前日	○	3回 すずかび病・灰色かび病・葉かび病にも適用あり
		ファンベル顆粒水和剤 ※2 ※3	1000倍			●	3回 灰色かび病・葉かび病・すすかび病にも適用あり
		バンチョTF顆粒水和剤	2000倍			●	2回
	灰色かび病	アフエットフロアブル	2000倍	散布	前日	○	3回 うどんこ病・葉かび病・すすかび病にも適用あり
		フルピカフロアブル	2000倍			○	4回
		ピクシオDF	2000倍			●	4回
		ファンタジスタ顆粒水和剤 ※2	2000倍			●	3回 すずかび病・葉かび病・斑点病にも適用あり
		ゲッター水和剤	1000倍			●	5回 葉かび病にも適用あり
	オオタバコガ トマトサビダニ ミカンキイロアザミウマ	アニキ乳剤	2000倍	散布	前日	—	3回 コナジラミ類・ハスモンヨトウ・ハモグリバエ類にも適用あり
		コテツフロアブル	2000倍			—	3回 ナミハダニにも適用あり
		マッチ乳剤	2000倍			—	4回 コナジラミ類にも適用あり ハスモンヨトウ(3000倍)・ハモグリバエ類(1000倍)にも適用あり
	オオタバコガ	フェニックス顆粒水和剤	2000倍	散布	前日	—	2回 ハスモンヨトウにも適用あり
	アザミウマ類	スピノエース顆粒水和剤	5000倍	散布	前日	—	2回 オオタバコガ・ハモグリバエ類にも適用あり
	アブラムシ類 コナジラミ類	トランスフォームフロアブル	2000倍	散布	前日	—	2回 トマトサビダニにも適用あり
		ウララDF	2000倍			—	3回 ミカンキイロアザミウマにも適用あり
		コルト顆粒水和剤	4000倍			—	3回 ※セイヨウオオマルハナバチの場合は3日
		チェス顆粒水和剤	5000倍			—	3回
	着果促進 果実の肥大促進 熟期の促進	トマトーン	20℃以上 100倍 20℃以下 50倍	1花房で3～5花位 開花した時期 1花房あたり1回			
	空洞果防止	ジベレリン	10ppm 1花房あたり5ml	開花時花房散布 (1花房あたり1回)			トマトーンと併用可

(○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

※1 ダコニール1000、アミスターオブティフロアブル、ブリザード水和剤は同一成分(TPN)を含むため、総使用回数は4回以内とする。

※2 ファンベル顆粒水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤は同一成分(ピリベンカルブ)を含むため、総使用回数は3回以内とする。

※3 ファンベル顆粒水和剤、ベルコートフロアブルは同一成分(イミノクタジン)を含むため、総使用回数は3回以内とする。

※マルハナバチを使用する場合は、農薬散布後の安全日数クリアを確認してからハウス内に放し飼いの。

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。

※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また発生を予測して、適期防除に努める。

展着剤

展着剤名	適用農薬名	使用量	説 明
スカッシュ	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100ml	植物表面に広がり、均一に付着させるので、果実や葉の汚れが少なくなる。

除草剤

薬 剤 名	適用雑草名	使用量(散布液量)	使用方法	使用回数	使用時期
バスタ液剤	一年生雑草	10ℓ当り300～500g(水量100～150ℓ)	雑草茎葉散布	3回	収穫前日まで(雑草生育期定植前又は畦間処理)

【令和3年12月22日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

2022年度 ミニトマト 病害虫防除基準

JA山形おきたま トマト振興部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効 果	使用 回数	注 意 事 項
育苗期	苗立枯病	バンタック水和剤75	1000倍 3ℓ/㎡土壌灌注	は種時～ 子葉展開時	○	1回	
	アブラムシ類	ダントツ粒剤 ※3	1g/株 株元処理	育苗期	—	1回	マルハナバチ利用の場合は使用しない。
	アザミウマ類	※ 生育期『オオタバコガ・トマトサビダニ・アザミウマ類・アブラムシ類・コナジラミ類』防除薬剤らんをご参照下さい。					
育苗期 後半	アザミウマ類 アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類	ベリマークSC	25ml/400株	灌注	育苗期後半 ～定植当日	—	1回 《使用例》 400倍の希釈液を1ポットあたり25ml灌注する。
定植前	土壌線虫	※ 8ページ『土壌線虫』防除らんをご参照下さい。					
定植時	アブラムシ類 コナジラミ類	ダントツ粒剤 ※3	2g/株 植穴処理土壌混和	定植時	—	1回	育苗期に使用した場合は定植時には使用しない。 マルハナバチ利用の場合は使用しない。
		モスピラン粒剤	1g/株 植穴土壌混和		—	1回	
生育期	疫病	ホライズンドライフフロアブル	1500倍	散布	前日	●	3回
		ランマンフロアブル	1000倍			●	4回
	葉かび病 すすかび病	ベルコートフロアブル	4000倍	散布	前日	○	2回 うどんこ病・灰色かび病・斑点病にも適用あり
		ダコニール1000	1000倍			○	2回 疫病・うどんこ病・灰色かび病・斑点病にも適用あり
		トリフミン水和剤 ※1	3000倍			●	5回
		シグナムWDG ※2	2000倍			●	2回 うどんこ病・灰色かび病にも適用あり
		ファンタジスタ顆粒水和剤	3000倍			●	3回 灰色かび病・斑点病にも適用あり
	葉かび病	ホライズンドライフフロアブル	2500倍	散布	前日	●	3回
	うどんこ病	パンチョTF顆粒水和剤 ※1	2000倍	散布	前日	●	2回
	灰色かび病	アフェットフロアブル	2000倍	散布	前日	○	3回 うどんこ病・葉かび病・すすかび病・斑点病・菌核病にも適用あり
		フルピカフロアブル	2000倍			○	4回
		カンタスドライフロアブル ※2	1500倍			○	3回 葉かび病にも適用あり 葉害防止のため農着剤を加用しない
		ピクシオDF	2000倍			●	4回
	斑点病	ロブラール水和剤	1000倍	散布	前日	●	3回 灰色かび病にも適用あり ※耐性菌出現防止の為、連用は避ける。
	オオタバコガ トマトサビダニ ミカンキイロアザミウマ	アニキ乳剤	2000倍	散布	前日	—	3回 コナジラミ類・ハスモンヨトウ・ハモグリバエ類にも適用あり
		コテツフロアブル	2000倍			—	3回 ナミハダニにも適用あり
		マッチ乳剤	2000倍			—	2回 コナジラミ類にも適用あり ハスモンヨトウ(3000倍)にも適用あり
	オオタバコガ	フェニックス顆粒水和剤	2000倍	散布	前日	—	2回 ハスモンヨトウにも適用あり
	アザミウマ類	スピノエース顆粒水和剤	5000倍	散布	前日	—	2回 オオタバコガ・ハモグリバエ類にも適用あり
	アブラムシ類 コナジラミ類	ダントツ水溶剤 ※3	2000倍	散布	前日	—	3回 ハモグリバエ類にも適用あり
		トランスフォームフロアブル	2000倍			—	2回 トマトサビダニにも適用あり
		チェス顆粒水和剤	5000倍			—	3回
		ウララDF	2000倍			—	3回 ミカンキイロアザミウマにも適用あり
	着果促進 果実の肥大促進 熟期の促進	トマトーン	20℃以上 100倍 20℃以下 50倍	開花前3日～ 開花後3日位 1花につき1回			

(○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

※1 トリフミン水和剤、パンチョTF顆粒水和剤は同一成分(トリフルミゾール)を含むため、総使用回数は5回以内とする。

※2 シグナムWDG、カンタスドライフロアブルは同一成分(ボスカリド)を含むため、総使用回数は3回以内とする。

※3 ダントツ粒剤、ダントツ水溶剤は同一成分(クロチアニジン)を含むため、総使用回数は4回以内とする。
(ただし、育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内)

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。

※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また、発生予防を実施し適期防除に努める。

展着剤

展着剤名	適用農薬名	使用量	説 明
スカッシュ	殺菌剤・殺虫剤	散布液100ℓ当り100ml	植物表面に広がり、均一に付着させるので、果実や葉の汚れが少なくなる。

除草剤

薬 剤 名	適用雑草名	使用量(散布液量)	使用方法	使用回数	使用時期
バスタ液剤	一年生雑草	10a当り300～500ml (水量100～150ℓ)	雑草莖葉散布	3回	収穫前日まで(雑草生育期定植前又は畦間処理)

【令和3年12月22日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

2022年度 ハウスメロン 病害虫防除基準

JA山形おきたま メロン振興部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効果 回数	使用 回数	注意事項
床土準備	つる割病	クロロピクリン錠剤 (劇)	1錠/(30cm×30cm) 1穴 土壌くん蒸		○	1回	床土を30cmの高さに積み30×30cm毎に1錠/1穴処理する。 被覆を取り除いて5～7日後に切り返しを行いガス抜きを行う。
ハウス準備	黒点根腐病・つる割病	ガスタード微粒剤 (劇)	30kg/10a 土壌混和	定植 21日前	○	1回	土壌消毒は土壌を耕起整地した後、本剤の所定量を均一に 散布して深さ15～25cmに土壌と十分混和し、7～14日間ビニ ール等で被覆する。2回以上耕起し、ガス抜きを行う。散布後21 日以上経ってから作付けする。
	ネコブセンチュウ	ネマキック粒剤	20kg/10a 全面土壌混和	定植前	—	1回	
育苗期	アブラムシ類	アドマイヤー1粒剤	1g/株 株元散布	育苗期 後半	—	1回	育苗期後半に使用した場合は定植時には使用しない。 茎葉・根に薬剤が直接触れないように注意する。
	斑点細菌病 べと病	ジマンダイセン水和剤 ※3	600倍 散布	7日前	○	5回	
定植時	アブラムシ類	アドマイヤー1粒剤	2g/株 植穴または 株元土壌混和	定植時	—	1回	育苗期に使用した場合は定植時には使用しない。 茎葉・根に薬剤が直接触れないように注意する。
活着後	つる枯病・べと病	ダコニール1000 ※1	1000倍 散布	3日前	○	5回	ダコニール剤を3回以上連用すると茎葉の硬化が見られる。
	うどんこ病	ダコニール1000 ※1	700倍 散布	3日前	○	5回	
	つる枯病 菌核病	ロブラル水和剤	1000倍 散布	前日	○	4回	耐性菌出現防止のため連用を避ける。
	アブラムシ類 コナジラミ類	ウララDF	2000倍 散布	前日	—	2回	訪花昆虫に対する安全性が高い。
生育前期 (交配まで)	つる枯病 うどんこ病	ベルクート水和剤 ※2	1000倍 散布	前日	○	5回	交配2～3日前から交配20日後までは使用しない。
	ハダニ類	スターマイトフロアブル	2000倍 散布	前日	—	1回	※発生時に単用散布する。
	べと病	ホライズンドライフロアブル	2500倍 散布	前日	●	3回	
	ウリノメイガ	アフーム乳剤	2000倍 散布	前日	—	2回	
生育後期 (交配後)	アブラムシ類	チェス顆粒水和剤	5000倍 散布	3日前	—	4回	
	ウリノメイガ オオタバコガ	フェニックス顆粒水和剤	2000倍 散布	前日	—	2回	
	ハダニ類	コロマイト乳剤	1000倍 散布	前日	—	2回	※発生時に単用散布する。
	アブラムシ類 ハダニ類	アーデント水和剤	1000倍 散布	前日	—	5回	交配前にアブラムシ類・ハダニ類の防除は徹底しておく。
	うどんこ病	テーク水和剤 ※3	600倍 散布	7日前	●	5回	つる枯病、べと病にも適用あり。
	つる枯病・べと病	プロボーズ顆粒水和剤 ※1	1000倍 散布	3日前	●	5回	
ネット発生 盛期	うどんこ病・つる枯病	ネクスターフロアブル	1000倍 散布	前日	○	3回	
	うどんこ病	イオウフロアブル	500倍 散布	—	○	—	高温時の散布は避ける。
	アザミウマ類、コナジラミ 類、ウリノメイガ、ハダニ 類、ハモグリバエ類	グレース乳剤	2000倍 散布	前日	—	2回	
	アブラムシ類	アドマイヤー水和剤 (劇)	2000倍 散布	3日前	—	3回	
ネット発生 後期	うどんこ病・つる枯病	ポリバリン水和剤 ※2	1500倍 散布	前日	●	5回	
	べと病・つる枯病	アミスター20フロアブル	2000倍 散布	前日	●	4回	うどんこ病にも適用あり。高温多湿条件下で薬害の恐れがある ので注意する。農薬の加用しない。
	うどんこ病	パンチョTF顆粒水和剤	2000倍 散布	前日	●	2回	交配2～3日前から交配後20日まで使用しない。
	アブラムシ類	アクタラ顆粒水和剤	3000倍 散布	前日	—	3回	
成熟期	うどんこ病・つる枯病	ネクスターフロアブル	1000倍 散布	前日	○	3回	収穫までの日数を考慮し、安全使用基準を遵守する。
収穫前	※収穫日が予定より早い場合を想定し、余裕をもって薬剤散布を打ち切る。						

(○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

- ※1 ダコニール1000、プロボーズ顆粒水和剤は同一成分 (TPN) を含むため、総使用回数は5回以内とする。
 ※2 ベルクート水和剤、ポリバリン水和剤は同一成分 (イミノクタジン) を含むため、総使用回数は5回以内とする。
 ※3 ジマンダイセン水和剤、テーク水和剤は同一成分 (マンゼブ) を含むため、総使用回数は5回以内とする。
 ※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。
 ※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また、発生予防を実施し適期防除に努める。
 ※抵抗性品種 (えそ斑点病対策) の導入を図る。また、発病株は早期に抜き取り適切に処分する。

展着剤

適用農薬名	展着剤名	使用量	説 明
殺菌剤・殺虫剤	アピオン-E	散布液100ℓ当り100mℓ	薬剤の被覆層を厚くし付着量を多くし面着性に優れる。保護殺菌剤・予防剤加用で効果。
殺菌剤・殺虫剤	アブローチBI	散布液100ℓ当り100mℓ	展着性・浸透性があり加用する農薬の薬害が少ない。治療型殺菌剤への加用効果大。
殺菌剤・殺虫剤	スカッシュ	散布液100ℓ当り100mℓ	植物表面に広がり、均一に付着させるので果実や葉の汚れが少なくなる。

除草剤

適用雑草名	薬 剤 名	使用量 (散布液量)	使用方法	使用時期	使用回数	注意事項
一年生雑草	クレマート乳剤	10a当り200～400mℓ (水量100～150ℓ)	全面土壌散布	定植・マルチ前 (雑草発生前)	1回	イネ科・広葉・カヤツリグサ科・アブラナ科に効果。 多年生雑草・キク科・ツユクサには効果がある。
一年生雑草	バスタ液剤	10a当り300～500mℓ (水量100～150ℓ)	雑草茎葉散布	収穫31日前まで (雑草生育期定植 前又は間作処理)	2回	散布液が作物へ飛散しないように注意する。

【令和3年12月22日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

2022年度 ねぎ 病害虫防除基準

JA山形おきたま ねぎ振興部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	使用量	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効果 回数	注意事項
育苗期 ～生育期	べと病・黒斑病 アザミウマ類 ネギハモグリバエ	ダコニール1000 ※2 ダイアジン乳剤40 (調)	1000倍	散布	14日前	○ 3回	
育苗期後半 ～定植当日	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	ジュリボフロアブル ※6	200倍	灌注	育苗期後半 ～定植当日	○ 1回	セル成育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (30×60cm・使用土壌約1.5～4.0L) 当り0.5L タマネギバエ・タネバエ・ネギリムシ類にも適用あり 茎葉・根に薬剤が直接触れないように注意する。
定植前日 ～定植時	アザミウマ類 ハモグリバエ類 タネバエ・ネギコガ	スタークル顆粒水溶剤	50倍	灌注	定植前日 ～定植時	○ 1回	セル成育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (30×60cm・使用土壌約1.5～4.0L) 当り0.5L
定植時	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	ベストガード粒剤	5kg/10a 播種処理土壌混和		定植時	○ 1回	茎葉・根に薬剤が直接触れないように注意する。
	ネギリムシ類	カルホス微粒剤F (調)	5kg/10a 土壌表面散布土壌混和処理		植付時	○ 1回	
生育期	軟腐病	オリゼメート粒剤	6kg/10a	株元散布	30日前	○ 2回	土寄せ時に使用する。(土寄せ前に株元散布した後、土寄せを行う。)
		クプロシールド	1000倍		○	○	べと病にも適用あり
		バリダシン液剤5	500倍		前日	○ 2回	白絹病・苗立枯病(400倍 灌注 播種時 1回)にも適用あり
		スターナ水和剤 ※3	2000倍	散布	7日前	○ 3回	
		カセット水和剤 ※4	1000倍		14日前	● 2回	高温多湿で発生が多く、連作地で発生しやすい。 過湿にならないよう排水に注意する。
		カスミンボルドー ※4	1000倍		14日前	● 2回	
	白絹病	ユニフォーム粒剤 ※1	9kg/10a	株元土壌混和	土寄せ時 45日前	○ 1回	べと病・さび病にも適用あり
	べと病	ジマンダイセン水和剤 ※5	600倍		14日前	○ 3回	黒斑病・さび病にも適用あり
		ヨネポン水和剤	500倍		7日前	○ 4回	さび病・黒斑病・軟腐病にも適用あり 高温時の使用は葉害の恐れがあるので注意。
		プロボーズ顆粒水和剤 ※2	1000倍	散布	14日前	● 3回	葉枯病にも適用あり
		ザンボDMフロアブル	1500倍			● 3回	
		アリエッティ水和剤	800倍			● 3回	
	黒斑病	アミスター20フロアブル ※1	2000倍		3日前	● 4回	●発生時に使用する。黄斑病・葉枯病にも適用あり 耐性菌出現防止のため運用は避ける
		ロブラール水和剤	1000倍	散布	14日前	● 3回	多湿環境で発生が多く肥切れなど草勢が弱ると多発する。また、多肥の場合も発生する。降雨時には発生に注意する。
	さび病	アミスター20フロアブル ※1	2000倍	散布	3日前	● 4回	●発生時に使用する。黄斑病・葉枯病にも適用あり 耐性菌出現防止のため運用は避ける
		ジマンダイセン水和剤 ※5	600倍		14日前	○ 3回	黒斑病・べと病にも適用あり 比較的低湿での発生が多く草勢低下時に多く見られる。後雨時期・9月以降は特に発生に注意し予防に努める。
		テーク水和剤 ※5	600倍		○ 3回	○ 3回	べと病・黒斑病・葉枯病にも適用あり
		アフットフロアブル	2000倍	散布	前日	○ 2回	黒斑病・小蕾核腐敗病・白絹病・葉枯病にも適用あり
		オンリーワンフロアブル	1000倍		14日前	● 3回	黒斑病にも適用あり
		アミスター20フロアブル ※1	2000倍		3日前	● 4回	●発生時に使用する。黄斑病・葉枯病にも適用あり 耐性菌出現防止のため運用は避ける
	アザミウマ類	ファインセーフフロアブル (調)	2000倍	散布	前日	● 5回	
		ダントツ粒剤	6kg/10a	株元散布	3日前	○ 4回	ネギハモグリバエにも適用あり
	ネギハモグリバエ	コルト顆粒水和剤	2000倍	散布		○ 3回	アブラムシ類にも適用あり
	アブラムシ類	アグロスリン乳剤 (調)	2000倍	散布	7日前	○ 5回	アザミウマ類・ネギハモグリバエ・ネギコガにも適用あり シロイチモジトウ(1000倍)にも適用あり
	シロイチモジトウ	ブレオフロアブル	1000倍		3日前	○ 4回	ネギアザミウマにも適用あり
		アニキ乳剤	1000倍	散布		○ 3回	ネギアザミウマ・ネギコガ・ハモグリバエ類にも適用あり
		ディアナSC	2500倍		前日	○ 2回	アザミウマ類・ネギハモグリバエ・ネギコガにも適用あり
	アザミウマ類 ハモグリバエ類 シロイチモジトウ	グレーシア乳剤	2000倍	散布	7日前	○ 2回	ネギコガにも適用あり
		ベネビアOD ※6	2000倍	散布	前日	○ 3回	

(○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

※1 ユニフォーム粒剤、アミスター20フロアブルは、同一成分（アゾキシストロピン）を含むため、耐病菌出現防止のため運用は避け、総使用回数は4回以内とする。

※2 ダコニール1000、プロボーズ顆粒水和剤は同一成分（TPN）を含むため、総使用回数は3回以内とする。

※3 スターナ水和剤、カセット水和剤は同一成分（オキシリニック酸）を含むため、総使用回数は3回以内とする。

※4 カセット水和剤、カスミンボルドーは同一成分（カスガイマイシン）を含むため、総使用回数は2回以内とする。

※5 ジマンダイセン水和剤、テーク水和剤は同一成分（マンゼブ）を含むため、総使用回数は3回以内とする。

※6 ジュリボフロアブル、ベネビアODは、同一成分とみなし、運用は避ける。

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数です。

※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を行います。また発生を予測して、適期防除に努めましょう。

展着剤

適用農薬名	展着剤名	使用量	説 明
殺菌剤・殺虫剤	ワイドコート	散布液100L当り33mL	薬剤をムラなく拡げ落ちづらくする。均一付着により汚れ少ない。 少量散布でも農薬本来の効果を引き出す。
殺菌剤・殺虫剤	アピオン-E	散布液100L当り100mL	薬剤の被覆性を厚くし固着性に優れ、雨前散布や保護剤散布に。
殺菌剤・殺虫剤	アブローチBI	散布液100L当り100mL	湿展性・浸透性に優れ、治療効果がある殺菌剤や殺虫剤散布に。
殺菌剤・殺虫剤	ミックスパワー	散布液100L当り33mL	湿展性・浸透性に優れ、均一付着により汚れ少ない。殺菌剤の降雨間散布に。 ※使用回数3000倍とする。

除草剤

時 期	適用雑草名	薬 剤 名	使用量 (散布液量)	使用方法/使用時期/使用回数	注意事項
定植前	一年生雑草	ラウンドアップマックスロード	10a当り200～500mL (水量50～100L)	雑草茎葉散布 耕起前又は定植5日前まで	3回 少量散布の散布量(5～50L)/10a
定植後	一年生雑草	ゴーゴーサン細粒剤F	4～6kg/10a	全面土壌散布 定植後(雑草発生前)	1回 ツユクサ、キク科には効果がある。
		ゴーゴーサン乳剤	10a当り200～300mL (水量70～100L)	但し、定植10日後まで	1回 同一成分のためどちらか1回のみ使用のこと。
生育期	一年生雑草	バスタ液剤	10a当り300～500mL (水量100～150L)	雑草茎葉散布 収穫前日まで (雑草生育期定植前又は晩間処理)	2回 作物に飛散しないように注意をする。

【令和3年12月22日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

2022年度 アスパラガス 病害虫防除基準

JA山形おきたま アスパラガス振興部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	使用量	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効果 回数	使用 回数	注意事項	
生育期	茎枯病 斑点病 褐斑病	ベルコート水和剤 ※2	1000倍	散布	7 日前	○	5 回	○茎枯病 病原菌は、被害植物上に形成された腐敗組織に越冬し、翌年気温が上昇すると共に胞子を形成し飛散・伝染する。特に収穫後の株茎成茎に発生し、降雨が多いと多発する。被害茎葉は果てて焼却し、圃場に残さず処分する。また、罹病茎を刈り取る時は低刈りとする。 茎枯病は、予防防除の徹底が重要となっており、立茎開始から3～5日間隔で防除を行なう。 ○斑点病 茎や葉に発生し、赤褐色で楕円形の小型病斑が形成され、やがて灰褐色に退色する。病斑が茎や葉を取り囲むとその上部は枯死して落葉する。立茎時期から感染するが、発生が増大するのは8月中旬以降の秋雨時である。 ○褐斑病 病徴は斑点病とほとんど同じで判別が難しい。褐斑病は病徴がすすむと病斑中心部に黒色の粒点が密生する。斑点病と同様に、罹病した葉は次年度の伝染源となるため、なるべく圃場から除去する。 アミスター20フロアブルは茎害の恐れがあるため、高温期の散布を避ける。 ファンタジスタ顆粒水和剤とアミスター20フロアブルとの連用は避けること。	
		ダコニール1000	1000倍		前日	○	4 回		
		アフェットフロアブル	2000倍		前日	○	4 回		
		コサイド3000	2000倍		—	○	—		
		アミスター20フロアブル	2000倍		前日	●	4 回		
		ファンタジスタ顆粒水和剤	3000倍		前日	●	3 回		
		ロブラール水和剤	2000倍		前日	○	5 回		
	茎枯病 斑点病	Zボルドー	500倍	散布	—	●	—	アミスター20フロアブルは茎害の恐れがあるため、高温期の散布を避ける。 ファンタジスタ顆粒水和剤とアミスター20フロアブルとの連用は避けること。	
	茎枯病	ベンレート水和剤	2000倍	散布	前日	●	4 回		
	斑点病	ラリー水和剤	4000倍	散布	前日	●	2 回		
		スコア顆粒水和剤	2000倍	散布	前日	●	2 回		
	軟腐病	スターナ水和剤	2000倍	散布	前日	○	2 回	立茎本数を適正にし、通風を良くすることが重要。 雨天が続き、発後にロウ状症状が観察される場合に散布する。	
	生育期	ネキリムシ類	ガードベイトA ※1	3kg/10a 株元散布	前日	—	—	3 回	アブラムシ類・カメムシ類・ヨトウムシにも適用あり アザミウマ類・カメムシ類・コナジラミ類にも適用あり オオタバコガ・ヨトウムシ・ハスモンヨトウ・ハダニ類にも適用あり
		ジュウシホシクビナガハムシ	アディオソ乳剤 ※1	2000倍	散布	前日	—	3 回	
			スタークル顆粒水和剤	2000倍	散布	前日	—	3 回	
			コテツフロアブル	2000倍	散布	前日	—	2 回	
		ハダニ類	コロマイト乳剤	1000倍	散布	前日	—	2 回	アブラムシ類・カメムシ類・ジュウシホシクビナガハムシにも適用あり アブラムシ類にも適用あり カスミカメムシ類・コナジラミ類にも適用あり アブラムシ類・ジュウシホシクビナガハムシ・コナジラミ類にも適用あり
		ネギアザミウマ	ダントツ水溶剤	2000倍	散布	前日	—	3 回	
			ウララDF	2000倍			—	3 回	
			コルト顆粒水和剤	4000倍			—	3 回	
ハチハチフロアブル			1000倍	—			2 回		
アザミウマ類		ファインセーフフロアブル	2000倍	散布	前日	—	2 回		
		リーフガード顆粒水和剤	1500倍			—	2 回		
		アドマイヤー顆粒水和剤	5000倍			—	2 回		
		ディアナSC	2500倍			—	2 回		
カメムシ類	アーデント水和剤	1000倍	散布	前日	—	2 回	アブラムシ類・オオタバコガにも適用あり		
ハスモンヨトウ	アフーム乳剤	2000倍	散布	前日	—	2 回	オオタバコガ・ヨトウムシにも適用あり		
	フェニックス顆粒水和剤	2000倍			—	2 回	オオタバコガ・ヨトウムシにも適用あり プレバソフフロアブル5との連用は避けること		
	プレバソフフロアブル5	2000倍			—	3 回	フェニックス顆粒水和剤との連用は避けること		
カタツムリ類 ナメクジ類	スラゴ		1g～5g/m ²	発生時	—	—	ナメクジ類及びカタツムリ類の発生あるいは被害を受けた場所又は株元に配置。		
収穫終了後	茎枯病	リゾレックス水和剤	500倍	散布	収穫後～茎葉刈取り期まで (収穫14日前)	●	3 回	夏期高温時の散布で茎害の恐れがあるので注意する。	
		ベフラン液剤25 ※2	1000倍	散布	収穫終了後 (冬期まで)	●	5 回		

展着剤

(○予防効果が期待できる。●予防・治療効果が期待できる。)

適用農薬名	展着剤名	使用量	説明
殺菌剤・殺虫剤	アピオン-E	散布液1000当たり100ml	薬剤の被覆層を厚くし付着量を多くし固着性に優れる。雨前散布、予防剤加用で効果。
殺菌剤・殺虫剤	アブローチBI	散布液1000当たり100ml	展着性・浸透性の効果がある。治療型殺菌剤への加用効果大。
殺菌剤・殺虫剤	スカッシュ	散布液1000当たり100ml	植物表面に広がり、均一に付着させるので、果実や葉の汚れが少なくなる。
殺菌剤・殺虫剤	ワイドコート	散布液1000当たり33ml	薬剤をムラなく掛け落とす。均一付着により汚れ少ない。少量散布でも農薬本来の効果を引き出す。

除草剤

時期	適用雑草名	薬剤名	使用量(散布液量)	使用時期/使用回数	使用方法/注意事項
準備	スギナ	ラウンドアップマックスロード	10a当り1500～2000ml (水量50～100L)	収穫前日まで (雑草生育期・秋間処理)	2回 雑草茎葉散布
萌芽前	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤	10a当り200～300ml (水量100L)	萌芽前又は収穫打切後 (雑草発生前)	1回 全面土壌散布
		クレマート乳剤	10a当り200～400ml (水量100～150L)	萌芽前 (雑草発生前)	1回 全面土壌散布
		ロロックス	10a当り150～200g (水量70～150L)	萌芽前 (雑草発生前～発生始期)	1回 全面土壌散布
		ゴーゴーサン細粒剤F	10a当り4～6kg	萌芽前 (雑草発生前)	1回 全面土壌散布
生育期	一年生雑草	センコル水和剤	10a当り100～150g (水量100L)	萌芽前～萌芽始期 または収穫打ち切り後 (雑草発生前～4、5葉期)	1回 雑草茎葉散布又は全面土壌散布 作物体が地上に現れたら使用できません。
	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	ナブ乳剤	10a当り150～200ml (水量100～150L)	収穫前日まで 雑草生育期(イネ科雑草3～5葉期)	1回 雑草茎葉散布又は全面土壌散布
	一年生雑草	バスタ液剤	10a当り300～500ml (水量100～150L)	収穫前日まで 雑草生育期(萌芽前又は秋間処理)	2回 雑草茎葉散布

※1 ガードベイトA、アディオソ乳剤は同一成分(ベルメトリン)を含むため、総使用回数は3回以内とする。

※2 ベルコート水和剤、ベフラン液剤25は同一成分(イミノクタン酢酸塩)を含むため、総使用回数は6回以内とする。

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。

※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また、発生予防を実施し適期防除に努める。

【令和3年12月22日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

2022年度 えだまめ 病害虫防除基準

JA山形おきたま えだまめ振興部会

時 期	薬 剤 名	使用方法	使用時期 (収穫まで)	使用 回数	対象病害虫																			注意事項
					葉斑病	萎縮病	灰色かび病・菌核病	赤かび病	べと病	葉点細菌病・葉焼病	室疫病	アブラムシ類	フタスジヒメハムシ	タネバエ	ダイズサヤタマバエ	ネキリムシ類	コガネムシ類	コガネムシ類 幼虫	カメムシ類	ウコンノメイガ	シロイテモシマダラメイガ	ハスモンヨトウ	マメシシクイガ	
は種前	クルーザー-FS30	葉株処理 原液6ml/乾燥種子1kg	1回	1回								●	●	●	●								クルーザー-MAXXを使用し場合は、クルーザー-FS30を使用しない。	
	クルーザー-MAXX	葉株処理 原液8ml/乾燥種子1kg	は種前	1回								●	●	●	●								忌避(キシバト・ハト)	
	キヒゲンR-2フロアブル	葉株処理 原液20ml/乾燥種子1kg	1回	1回								●											忌避(カラスノハト) チウラム処理済の場合は使用しない。	
	カルホス微粒剤F(Ⅷ)	6kg/10a 土壌表層散布・土壌灌漑処理	1回	は種時								●	●	●	●									
は種時	ダイアジン粒剤5	8kg/10a 作付前：全面土壌灌漑又は 作業土壌灌漑 作物生育中：作業処理して 軽く覆土	30日前 ※1	5回 ※1								●	●	●	※2								※1 生育期の使用は4回以内 ※2 ネキリムシ類防除の場合は使用方法を「土壌表層散布」とする。	
	アドマイヤー-1粒剤	3kg/10a 播種土壌灌漑処理	は種時	1回								●												
	ネキリエースK	3kg/10a 土壌表層散布処理	21日前	2回											●									
	ロプラール水和剤	1000倍	30日前	3回																				
生育期	ゲッター水和剤	1500倍	7日前	3回																				
	セイビア-フロアブル20	1000倍	前日	3回				●																
	アミスター-20フロアブル	2000倍	前日	3回																				
	ランマンフロアブル	1000倍	前日	3回					●															
	フェスティバルC水和剤	500倍	前日	3回					●															
	スミチオン乳剤	1000倍	21日前	4回								●								●			開花前及び開花一週間後にいずれかの薬剤防除する。 ただし収穫前日数に注意する。	
	トレボン乳剤	1000倍	14日前	2回								●								●				
	スタークル顆粒水溶液	2000倍	7日前	3回								●								●			※フタスジヒメハムシ防除の場合は「3000倍」で使用する。 ※カメムシ類・マダニクイガ防除の場合は「1000倍」で使用する。 アザミウマ類・ハダニ類にも適用あり	
	マラソン乳剤	2000倍	3日前	3回								●								●				
	アグロスリン乳剤(Ⅷ)	2000倍	3日前	3回																●			オオタハコガにも適用あり	
フレバノンフロアブル5	4000倍	3日前	3回																●			害虫の発生原因にもなるので圃場や圃場周囲の雑草を除去する。		
マトリックフロアブル	2000倍	前日	3回																●					

殺草剤

時期	適用殺草剤名	薬剤名	使用量 (散布液量)	使用回数	使用方法/使用時期	注意事項
播種前	一年生雑草	ラウンドアップマックスロード	10a当り200～500ml (水量50～100L)	3回	雑草茎葉散布・播種前又は出芽前まで(雑草生育期)	
は種後	一年生雑草	トレアノサイド乳剤	10a当り200～300ml (水量100L)	1回	全面土壌散布・は種後 出芽前	ツクササ科・カヤツリグサ科・キク科・アブラナ科に効果がない。
は種後	一年生雑草	クリアター細粒剤F	4～5kg/10a	1回	全面土壌散布・は種直後(雑草発生前)	イネ科/広葉雑草に。
は種後	一年生雑草	クリアター乳剤	10a当り500～800ml (水量70～100L)	1回	全面土壌散布・は種直後(雑草発生前)	イネ科/広葉雑草に。
は種後	一年生雑草	フロールプラス乳剤	10a当り400～600ml (水量70～100L)	3回	全面土壌散布・は種後 出芽前(雑草発生前)	イネ科/広葉雑草に。
生育期	一年生雑草	バスタ液剤	10a当り300～500ml (水量100～150L)	1回	雑草茎葉散布又は全面散布・収穫14日前まで 雑草生育期	イネ科/広葉雑草に。作物にかららないように。
生育期	一年生雑草	ナブ乳剤	10a当り150～200ml (水量100～150L)	1回	雑草茎葉散布又は全面散布・収穫14日前まで(雑草生育期)	イネ科/広葉雑草に。効果がない。
生育期	一年生雑草	ボルトフロアブル	10a当り200～300ml (水量100L)	1回	雑草茎葉散布又は全面散布・収穫14日前まで(雑草生育期)	イネ科/広葉雑草に。効果がない。

※「えだまめ」と「大豆」は農薬登録が異なるので、それぞれの登録内容をしっかり確認して使用しましょう。

※使用回数は薬剤の作用期における最高散布回数です。

※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施します。また発生を予察して適切な防除に努めましょう。

【令和3年12月22日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

2022年度 食用菊 病害虫防除基準

JA山形おきたま 食用菊振興部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効 果	使用 回数	注意事項
定植時	ネキリムシ類	カルロス微粒剤F (調)	6kg/10a 土壌表面散布 土壌混和処理	定植時	—	1回	
	アブラムシ類	スタークル粒剤	1g/株 植穴土壌混和 (10a当り30kgまで)	定植時	—	1回	マメハモグリバエにも適用あり 2g/株(但し 10a当り30kgまで)
生育期	褐斑病	ダコニール1000 トップジンM水和剤	1000倍 1500倍	30日前 28日前	○ ●	4回 2回	雨よけを設置し、通風を良くし栽培距離は広げる。 窒素過多で発生を助長するので適切な施肥を行う。
	白さび病	ラリー乳剤 ストロビーフロアブル	3000倍 3000倍	14日前 3日前	● ○	2回 2回	褐斑病・黒斑病にも適用あり
	うどんこ病	イオウフロアブル	500倍	—	○	—	高温時の散布は葉害の恐れがあるため注意する。
	灰色かび病	アフェットフロアブル セイビアフロアブル20	2000倍 1000倍	7日前 3日前	○ ○	2回 2回	白さび病・うどんこ病にも適用あり
	アブラムシ類	アーデント水和剤	1000倍	14日前	—	1回	ハスモンヨトウ・ハダニ類・ミカンキイロアザミウマ・ヨトウムシにも適用あり 発生初期に使用する。
		モスピラン顆粒水溶剤 (調)	2000倍	—	—	2回	アザミウマ類にも適用あり
		スタークル顆粒水溶剤	3000倍	7日前	—	2回	
		ウララDF	4000倍	—	—	2回	
		マラソン乳剤	2000倍	3日前	—	2回	
		エコピタ液剤	100倍	前日	—	—	●単用散布する
	ミカンキイロアザミウマ	ベストガード粒剤	2g/株 株元散布	前日	—	2回	アブラムシ類・マメハモグリバエにも適用あり
		カスケード乳剤	2000倍	7日前	—	2回	マメハモグリバエにも適用あり
		コデツフロアブル (調)	2000倍	3日前	—	2回	オオタバコガ・ハダニ類・ヨトウムシ類にも適用あり
		スピノエース顆粒水和剤	10000倍	—	—	2回	
	アザミウマ類	アファーム乳剤	2000倍	14日前	—	1回	
		バイスロイドEW (調)	3000倍	7日前	—	2回	
		アグロスリン乳剤 (調)	1500倍	3日前	—	1回	アブラムシ類・オオタバコガ・ハスモンヨトウ・ヨトウムシにも適用あり
	ハモグリバエ類	トリガード液剤	1000倍	7日前	—	2回	
	ハダニ類	スターマイトフロアブル	2000倍	7日前	—	1回	
		ダニサラバフロアブル	1000倍	3日前	—	2回	
		コロマイト水和剤	2000倍	前日	—	1回	
		アカリタッチ乳剤	1500倍	—	—	—	高温時の散布は葉害の恐れがあるため注意する。
	オオタバコガ	デルフィン顆粒水和剤	1000倍	前日	—	—	発生初期に使用する。

・ハウス開口部には防虫ネットを設置し、ハウス内と周辺の除草を行い、初期にスポット的に発生した場合は寄生葉を除去する。
・紫外線カットフィルムを利用する。(ただし紫色品種には使用しない)

土壌消毒剤

(○予防効果が期待できる、●予防・治療効果が期待できる。)

薬 剤 名	対象病害虫	使用量 (散布量)	使用時期/使用回数	使用方法
ガスタード微粒剤 (調)	センチュウ類 (ハダニ・センチュウを除く) 萎凋病 半身萎凋病 青枯病	30kg/10a	定植21日前まで	1回 土壌を耕起整地した後、所定量の薬剤を均一に散布して深さ15～25cmに 土壌と十分混和する。混和後ビニール等で被覆処理する。7～14日後被 覆を除去して少なくとも2回以上の耕起によるガス抜きを行う。

除草剤

薬剤名	適用雑草名	使用量	使用方法/使用回数	使用時期
ゴーゴーサン乳剤	一年生雑草	10a当り200～400ml (水量70～150ℓ)	全面土壌散布	1回 定植前(雑草発生前)
バスタ液剤	一年生雑草	10a当り300～500ml (水量100～150ℓ)	雑草茎葉散布	2回 定植前(雑草生育期)、収穫14日前まで(畦間処理:雑草生育期)

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数です。

※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施しましょう。また発生予防を実施して、適期防除に努めましょう。

【令和3年12月22日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

2022年度 たらのか 病害虫防除基準

JA山形おきたま 特産野菜振興部会 促成山菜部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効 果	使用 回数	注意事項	
伏込時	立枯疫病	ユニフォーム粒剤	20kg/10a 土壌表面散布	収穫終了後～落葉前 (収穫60日前まで)	○	2回	苗の場合は植え付け後～落葉前 但し、収穫60日前まで。 排水不良地に発生するため、圃場の排水をよくする。	
	そうか病	ストロビーフロアブル	2000倍	散布	75日前	○	2回	
		トップジンM水和剤	1500倍		伏込前 (収穫60日前まで)	●	2回	
	センノカミキリ幼虫 ヒメシロコブソウムシ	スミチオン乳剤	100倍	樹幹 散布	3～5月 株養成期	－	2回	
	センノカミキリ	モスピラン顆粒水溶剤 (調)	2000倍	散布	45日前	－	3回	
	ハダニ類	コデツフロアブル (調)	2000倍	散布	90日前	－	2回	
伏込時	萌芽促進	ジベレリン	50ppm	駒木 散布	伏込時	－	1回	散布液量(100～200㎖/㎡)

除草剤

(○予防効果が期待できる、●予防・治療効果が期待できる。)

薬 剤 名	適用雑草名	使用量(散布液量)	使用方法/使用回数	使用時期
ロロックス	一年生雑草	10a当り100g (水量70～150ℓ)	畦間土壌散布	2回 中耕・培土後(雑草発生前)
バスタ液剤	一年生雑草	10a当り300～500ml (水量100～150ℓ)	雑草茎葉散布	3回 収穫45日前まで(雑草生育期 植付前又は畦間処理)

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数です。

※『収穫』とは『駒木を収穫すること』を指す。

※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施しましょう。また発生予防を実施して適期防除に努めましょう。

【令和3年12月22日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

2022年度 青菜 病害虫防除基準

JA山形おきたま 特産野菜振興部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効 果	使用 回数	注意事項
作付前	根こぶ病	オラクル粉剤 ネビジン粉剤	20kg/10a 全面土壌混和 20kg/10a 全面土壌混和	は種前又は 定植前 は種又は 定植前	— —	2回 1回	アブラナ科の連作を避け、圃場の排水対策を徹底し、酸性土壌で発生が多いので酸度矯正を行う。
は種時	キスジノミハムシ ケラ・ネキリムシ類	ダイアジノン粒剤5	6kg/10a 全面土壌混和	は種時	—	1回	
生育期	アブラムシ類	ウララDF	4000倍 散布	前日	—	2回	アブラムシ類は、ウイルス病を伝播し、寄生により生育が停滞、付着により商品価値が下がるので発生初期に防除する。
	アブラムシ類 キスジノミハムシ	モスピラン顆粒水溶剤	4000倍 散布	7日前	—	1回	
	アオムシ・コナガ	カスケード乳剤	2000倍 散布	7日前	—	2回	発生初期に使用
		トアロー水和剤CT	2000倍 散布	前日	—	—	
	コナガ	フェニックス顆粒水和剤	2000倍 散布	前日	—	2回	
		アニキ乳剤	1000倍 散布	前日	—	3回	
	ヨトウムシ	スカウトフロアブル	2000倍 散布	7日前	—	2回	
	白斑病	ストロビーフロアブル	3000倍 散布	7日前	●	2回	
	白さび病	ランマンフロアブル	2000倍 散布	3日前	○	3回	
	べと病	ドイツボルドーA	1000倍 散布	—	○	—	肥料切れで発生が助長されるので適正な施肥を行う。
	軟腐病						圃場の排水対策を徹底し、傷口から感染するので害虫の防除を徹底する。多肥栽培は発生を助長するので適正な施肥を行う。

(○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

除草剤

適用雑草名	薬 剤 名	使用量 (散布液量)	使用方法/使用時期	使用 回数	注意事項
一年生雑草	ラウンドアップマックスロード	10a当り200～500mℓ (水量50～100ℓ/10a)	雑草茎葉散布 耕起前まで(雑草生育期)	1回	
一年生雑草	トレファノサイド乳剤	10a当り150～200mℓ (水量100ℓ/10a)	全面土壌散布 は種直後	1回	ツユクサ科・カヤツリグサ科・キク科・アブラナ科を除く
一年生イネ科雑草	ナブ乳剤	10a当り150～200mℓ (水量100～150ℓ/10a)	雑草茎葉散布又は全面散布 雑草生育期 イネ科雑草3～5葉期 但し、収穫7日前まで	1回	スズメノカタビラを除く

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。

※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また、発生予測を実施し適期防除に努める。

【令和3年12月22日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

2022年度 かぼちゃ 病害虫防除基準

JA山形おきたま 特産野菜振興部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効 果	使用 回数	注意事項
作付前	ネキリムシ類 ケラ	ダイアジノン粒剤5	6kg/10a 全面土壌混和又は 作床土壌混和	は種時又は 定植時	—	2回	コガネムシ類(幼虫)にも適用あり(収穫21日前まで)
定植時	アブラムシ類	モスピラン粒剤	1g/株 植穴土壌混和	定植時	—	1回	
生育期	疫病・べと病	ジマンダイセン水和剤	600倍 散布	21日前	○	2回	炭そ病・つる枯病にも適用あり 疫病は、排水不良地で発生が多くなるため排水対策を徹底する。
		アリエッティ水和剤	400倍 散布	前日	●	3回	
	べと病	ダコニール1000	1000倍 散布	7日前	○	3回	うどんこ病にも適用あり
	アブラムシ類	スミチオン乳剤	1000倍 散布	14日前	—	3回	アザミウマ類にも適用あり
		モスピラン顆粒水溶剤	2000倍 散布	前日	—	2回	
	ハスモンヨトウ	アグロスリン乳剤	2000倍 散布	前日	—	5回	アザミウマ類・アブラムシ類にも適用あり
	うどんこ病	ベルコート水和剤 ※1	1000倍 散布	7日前	○	4回	
		ベフドー水和剤 ※1	500倍 散布	7日前	○	4回	疫病にも適用あり
		パンチョTF顆粒水和剤	2000倍 散布	前日	●	2回	
		ストロビーフロアブル	3000倍 散布	前日	●	3回	べと病にも適用あり

除草剤

(○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

時 期	適用雑草名	薬 剤 名	使用量 (散布液量)	使用方法	使用 回数	使用時期
耕起前	一年生雑草	ラウンドアップマックスロード	10a当り200～500mℓ (水量50～100ℓ)	雑草茎葉散布	1回	耕起前まで(雑草生育期)
マルチ前	一年生雑草	クレマート乳剤	10a当り200～400mℓ (水量100～150ℓ)	全面土壌散布	1回	定植・マルチ前(雑草発生前)
生育期	一年生雑草	バスタ液剤	10a当り300～500mℓ (水量100～150ℓ)	雑草茎葉散布	2回	収穫30日前まで (雑草生育期定植前又は畦間処理)

※1 ベルコート水和剤、ベフドー水和剤は同一成分(イミノクタジン)を含むため、総使用回数は4回以内とする。

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。

※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また、発生予測を実施し適期防除に努める。

【令和3年12月22日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

2022年度 なす 病害虫防除基準

JA山形おきたま 特産野菜振興部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	使用方法	使用時期 (収穫まで)	効果	使用 回数	注意事項
定植前	半蒴萎病	ガスタード微粒剤 (劇)	20～30kg/10a	定植 2 1 日前まで	○	1回	土壌を耕起整地した後、所定量の薬剤を均一に散布して深さ15～25cmに土壌と十分混和する。混和後ビニール等で被覆処理する。被覆しない場合は頻回散水してガスの蒸散を防ぐ。被覆後7～14日に被覆を除去し、少なくとも2回以上の耕起によるガス抜きを行い、散布後21日以上経ってから作付する。
定植時	ネキリムシ類	カルホス粉剤	6kg/10a 土壌表面散布土壌湿和処理	定植時	—	2回	
	アブラムシ類	ダントツ粒剤	1g/株 植穴処理土壌湿和	定植時	—	1回	茎葉、根に薬剤が直接ふれないように注意する。
生育期	半蒴萎病	ベンレート水和剤	500倍 土 壌 かん注	定植後～ 収穫 1 4 日前まで	○	3回	希釈液を株当たり200～300ml株元かん注する。
	褐紋病		2000倍 散布	前日	●	—	
	褐色腐敗病	ホライズンドライフロアブル	2500倍	前日	○	3回	高畦栽培を行い、排水を回す。 湿度の高い時に発生し易い。近年、発生が見受けられるので注意する。
		ランマンフロアブル	2000倍	前日	○	4回	
	灰色かび病	ダコニール1000	1000倍	前日	○	4回	うどんこ病・黒枯病・すすかび病にも適用あり
		ベルコートフロアブル	2000倍	前日	○	3回	うどんこ病・黒枯病・すすかび病にも適用あり
		ロブール500アクア	1000倍	前日	○	4回	
	うどんこ病	バンチョF顆粒水和剤	2000倍	前日	●	2回	
		アミスター20フロアブル	2000倍	前日	●	4回	すすかび病にも適用あり
	ハダニ類	マイトコーネフロアブル	1000倍	前日	—	1回	高温乾燥の時に発生が多くなるので注意する。
		ダニサラバフロアブル	1000倍	前日	—	2回	
		コデツフロアブル (劇)	2000倍	前日	—	4回	オオタバコガ・チャノホコリダニ・テントウムシダマシ類・ハスモンヨトウ・ミカンキイロアザミウマ・ヨトウムシにも適用あり
	チャノホコリダニ	カネマイトフロアブル	1000倍	前日	—	1回	ハダニ類にも適用あり
		コロマイト乳剤	1500倍	前日	—	2回	※コロマイト乳剤：水なすには使用しない。(兼害の恐れあり) ハダニ類・ハモグリバエ類・コナジラミ類にも適用あり
		アファーム乳剤	2000倍	前日	—	2回	アザミウマ類・オオタバコガ・ハスモンヨトウ・ハダニ類・ハモグリバエ類にも適用あり
	アブラムシ類	スミチオン乳剤	1000倍	前日	—	5回	収穫期には使用しない。
		ダントツ水溶剤	2000倍	前日	—	3回	コナジラミ類・ハモグリバエ類・カメムシ類にも適用あり
		アグロスリン乳剤 (劇)	2000倍	前日	—	5回	オンシツコナジラミにも適用あり
		コルト顆粒水和剤	4000倍	前日	—	3回	カスミカメムシ類・コナジラミ類にも適用あり
	オオタバコガ	トルネードエースDF	2000倍	前日	—	2回	ハスモンヨトウにも適用あり
		フェニックス顆粒水和剤	2000倍	前日	—	3回	ハスモンヨトウにも適用あり
	コナジラミ類	チェス顆粒水和剤	5000倍	前日	—	3回	アブラムシ類にも適用あり

展着剤

(○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

展着剤名	適用農薬名	使用量	説 明
アブローチBI	殺菌剤・殺虫剤	散布液100L当たり100mL	湿展性・浸透性の効果がある。
スカッシュ	殺菌剤・殺虫剤	散布液100L当たり100mL	植物表面に広がり、均一に付着させるので、果実や葉の汚れが少なくなる。

除草剤

時 期	適用雑草名	薬 剤 名	使用量 (散布液量)	使用方法	使用回数	使用時期
耕起前	一年生雑草	ラウンドアップマックスロード	10a当り200～500mL (水量50～100L)	雑草茎葉散布	2回	耕起前まで(雑草生育期)
定植前 マルチ前	一年生雑草	クレマト乳剤	10a当り200～400mL (水量100～150L)	全面土壌散布	1回	定植前又は定植・マルチ前(雑草発生前)
生育期	一年生雑草	バスタ液剤	10a当り300～500mL (水量100～150L)	雑草茎葉散布	3回	収穫前日まで(雑草生育期定植前又は間隔処理)

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。

※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また、発生予測を実施し適期防除に努める。

【令和3年12月22日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

2022年度 スイートコーン (未成熟とうもろこし) 病害虫防除基準

JA山形おきたま 特産野菜振興部会

時 期	対象病害虫	薬 剤 名	使用方法	使用時期 (収穫まで)	使用 回数	注意事項
は種前	苗立枯病	キヒゲンR-2フロアブル	乾燥種子1kg当り 原液20mL塗抹処理	は種前	1回	カラス・キジ・キジバト・スズメ・ハト・ムクドリ忌避効果。 テトラ処理済の場合は使用しない。
生育期	すす紋病	トリフミン水和剤	2000倍 散布	7 日 前	3回	
	紋枯病	リゾレックス水和剤	1500倍 散布	1 4 日 前	2回	
	ネキリムシ類	ダイアジン粒剤5	6kg/10a 土壌表面 散布	出芽時	1回	総使用回数は2回までとする。
			散布	1 4 日 前	2回	
	アワノメイガ	プリンスフロアブル (劇)	2000倍	1 4 日 前	2回	アワノメイガ防除は雄蛹抽出始めと 7～10日後の2回散布する。
		トレボン乳剤	1000倍	7 日 前	4回	
		スミチオン乳剤	1000倍	前日	4回	
		ブレバソフロアブル5	2000倍	前日	3回	
	アブラムシ類	スタークル顆粒水溶剤	2000倍	前日	3回	カメムシ類にも適用あり

除草剤

時期	適用雑草名	薬 剤 名	使用量	使用方法	使用回数	使用時期
は種直後	一年生雑草	クリアターナー細粒剤F	4～5kg/10a	全面土壌散布	1回	は種直後(雑草発生前)
		クリアターナー乳剤	10a当り500～800mL (水量70～100L)	全面土壌散布		は種直後(雑草発生前)
		ゴーゴーサン乳剤	10a当り200～400mL (水量70～150L)	全面土壌散布		は種後出芽前(雑草発生前)

※スイートコーンの大作物群は「穀類」になるので野菜類の登録農薬は使用できないので注意すること。

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。

※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また、発生予測を実施し適期防除に努める。

マルチ栽培では除草剤は使用しない。

【令和3年12月22日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

2022年度 キャベツ 病害虫防除基準

JA山形おきたま 特産野菜振興部会キャベツ部会

時期	対象病害虫	薬 剤 名	使用方法	使用時期 (収穫迄)	効果	使用回数	注意事項
育苗期	べと病	ダコニール1000	1000倍 散布	14日前	○	2回	
	アオムシ・コナガ アブラムシ類	アグロスリン水和剤 (劇)	1000倍 散布	7日前	—	5回	アザミウマ類・タマナギンウワバ・ヨトウムシにも適用あり
	アオムシ アブラムシ類・コナガ ネギアザミウマ ハイマダラノメイガ ヨトウムシ	ジュリボフロアブル	200倍 灌注	育苗期後半 ～定植当日	—	1回	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (約30×60cm、使用土壌 約1.5～4L) 当たり 500ml ジュリボフロアブル・フェニックス顆粒水和剤は、同じ成分系を含むため連用は避ける。
定植前	根こぶ病	オラクル顆粒水和剤	500倍 灌注	定植前	○	1回	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊 (30×60cm、使用土壌約3～4L) 当り500ml
		オラクル粉剤	30kg/10a 全面土壌混和		○	2回	いずれか 1剤を選択し 使用する。
		ネビジン粉剤	30kg/10a 全面土壌混和		○	2回	菌核病にも適用あり
生育期	べと病	ジマンダイセン水和剤 ※1	600倍	30日前	○	3回	べと病は降雨が比較的多く、気温が低くなる秋あるいは春に発生が多い。
		ダコニール1000	1000倍 散布	14日前	○	2回	育苗期に使用した場合は生育期には1回のみでの使用とする。
		リドミルゴールドMZ ※1	1000倍	30日前	●	3回	
	べと病・黒腐病 軟腐病	ヨネポン水和剤	500倍 散布	7日前	○	5回	黒腐病は夏から秋に雨が多いときに出やすい病気。
	黒腐病・軟腐病 黒斑細菌病	カスミンボルドー ※2	1000倍	7日前	○	4回	結球期以降は葉に葉害を生じることがあるので使用しない。
		カセット水和剤 ※2	1000倍		●	3回	
	株腐病・黒腐病 軟腐病	バリダシン液剤5	800倍 散布	7日前	○	5回	
	株腐病	モンカットフロアブル40	2000倍	7日前	●	3回	株腐病は夏の高温多湿時に収穫する作型で多く発生。 結球開始期から予防散布をする。
		アミスター20フロアブル	2000倍		●	4回	菌核病にも適用あり
	アオムシ・コナガ アブラムシ類	ダントツ水溶剤	2000倍 散布	3日前	—	2回	
	コナガ アオムシ ヨトウムシ	ブレオフロアブル	1000倍	7日前	—	2回	ウワバ類・オオタバコガ・ハイマダラノメイガ・ハスモンヨトウにも適用あり
		トルネードエースDF	2000倍		—	2回	タマナギンウワバ・ハイマダラノメイガ・ハスモンヨトウにも適用あり
		トレボン乳剤	1000倍	3日前	—	3回	アブラムシ類にも適用あり
		ディアナSC	2500倍	前日	—	2回	アザミウマ類・ウワバ類・オオタバコガ・ハイマダラノメイガ・ハスモンヨトウにも適用あり
		アフーム乳剤	1000倍		—	3回	タマナギンウワバ・ハイマダラノメイガ・ハスモンヨトウにも適用あり
		フェニックス顆粒水和剤	2000倍		—	3回	ウワバ類・オオタバコガ・ハイマダラノメイガ・ハスモンヨトウにも適用あり

(○予防効果が期待できる。 ●予防・治療効果が期待できる。)

※1 ジマンダイセン水和剤、リドミルゴールドMZは同一成分（マンゼブ）を含むため、総使用回数は3回以内とする。

※2 カスミンボルドー、カセット水和剤は同一成分（カスガマイシン）を含むため、総使用回数は4回以内とする。

※使用回数は薬剤の1作期における最高散布回数である。

※病害虫の発生防止には耕種的・物理的防除を実施する。また発生予防を実施し、適期防除に努める。

除草剤

時期	対象雑草名	薬 剤 名	使用量	使用方法	使用時期／使用回数	注意事項
定植前	一年生雑草	クレマート乳剤	10a当り200～400ml (水量100～150L)	全面土壌散布	定植前 (雑草発生前)	1回 キク科・ツユクサには効果が劣る。 抑制期間30日位
定植後	一年生雑草	ラッソー乳剤	10a当り150～200ml (水量100L)	全面土壌散布	定植8日後まで	1回 アカザ科・タデ科には効果が劣る。 抑制期間20日位 ※夕方以降の散布は避ける。
	一年生イネ科雑草	ナブ乳剤	10a当り150～200ml (水量100～150L)	雑草茎葉散布 又は全面散布	雑草生育期 イネ科雑草3～5葉期 (収穫14日前まで)	1回 スズメノカタビラを除く。 広葉雑草およびカヤツリグサ科には効果が期待できない。

【令和3年12月22日現在の登録内容に基づいて記載しています。】

2022年度 野菜類に使える主な登録薬剤

JA山形おきたま 野菜振興会

用途	薬剤名		対象病害虫等・使用目的	散布時 希釈倍数・使用量	使用時期	使用 回数	注意事項		
殺菌剤	微生物剤	インプレッションクリア	うどんこ病・灰色かび病	1000～2000倍	発病前～ 発病初期	—			
		バイオキーパー水和剤	軟腐病	500～2000倍		—	かぼちゃ・ズッキーニは軟腐細菌病で適用あり		
		ボトキラー水和剤	うどんこ病・灰色かび病	1000倍		—			
		タフパール	うどんこ病	2000～4000倍		—	トマト・ミニトマトは左記に加え灰色かび病・葉かび病でも適用あり		
		マスタピース水和剤	軟腐病	1000～2000倍	収穫前日 まで	—	かぼちゃ・ズッキーニは軟腐細菌病で適用あり しょうがは腐敗病で適用あり キャベツは左記に加え黒斑細菌病・黒腐病でも適用あり		
		エコショット	灰色かび病	1000～2000倍		—			
	銅剤	コサイド3000	褐斑細菌病・黒腐病 軟腐病・斑点細菌病	2000倍	—	—			
		ドイツボルドーA	べと病・軟腐病	500～1000倍		—			
		Zボルドー	べと病・黒腐病・軟腐病 褐斑細菌病・斑点細菌病・黒斑細菌病	500倍		—			
	硫黄	イオウフロアブル	うどんこ病	500～1000倍	—	—	(すいか・かぼちゃは500倍) いちごは本圃で2000倍で適用あり トマト・ミニトマトは左記に加えトマトサビダニに対しても400倍で適用あり ねぎ・あさつき・わけぎは左記に加えさび病に対しても500倍で適用あり		
		硫黄粉剤50	うどんこ病	3kg/10a		—	ハダニ類にも適用あり		
	炭酸水素塩	カリグリーン	うどんこ病・さび病・灰色かび病	800倍	収穫前日 まで	—			
		ジーファイン水和剤	うどんこ病・軟腐病・白さび病	1000倍		—	なすはうどんこ病に対し1000～2000倍で適用あり		
		ハーモメイト水溶剤	灰色かび病・さび病 うどんこ病	800倍 800～1000倍		—			
殺虫剤	B.T.剤	クルスターキ菌	生菌	エスマルクDF	オオタバコガ・ヨトウムシ	1000倍	発生初期 但し 収穫前日 まで	—	
				デルフィン顆粒水和剤	アオムシ・コナガ	1000～2000倍		—	
			死菌	トアロー水和剤CT	アオムシ・コナガ	1000～2000倍		—	
				トアローフロアブルCT	ヨトウムシ	500～1000倍		—	
			アイザワイ菌	生菌	アオムシ・コナガ	1000～2000倍		—	
					ゼンターリ顆粒水和剤	アオムシ・コナガ・ヨトウムシ オオタバコガ・ハスモンヨトウ シロイチモジヨトウ		1000～2000倍 1000倍	—
		死菌		フローバックDF	アオムシ・コナガ	1000～2000倍		—	
				サブリーナフロアブル	オオタバコガ・ハスモンヨトウ・ヨトウムシ アオムシ・コナガ・ヨトウムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ	1000倍 1000倍 500～750倍 500倍		—	はくさいは、アオムシ・コナガ・ヨトウムシに対し 1000倍で適用あり
		物理的阻害	オレート液剤	アブラムシ類・コナジラミ類	100倍	発生初期～ 収穫前日まで		—	
			粘着くん液剤	アブラムシ類・コナジラミ類・ハダニ類	100倍	収穫前日 まで		—	うどんこ病にも適用あり
	殺虫殺菌剤	サンクリスタル乳剤	うどんこ病	300倍	収穫前日 まで	—	トマト・ミニトマトは左記に加えトマトサビダニにも適用あり なすは左記に加えチャノホコリダニにも適用あり		
			アブラムシ類・コナジラミ類・ハダニ類						
		アカリタッチ乳剤	ハダニ類	1000～3000倍		—			
			うどんこ病	2000倍		—			
エコピタ液剤		アブラムシ類・コナジラミ類・ハダニ類	100倍	—					
		うどんこ病							
フーモン	アブラムシ類・コナジラミ類・ハダニ類	1000倍	—	展着剤として使用する場合：使用量10mℓ/散布液10ℓ					
	うどんこ病								
その他	クレフノン	銅水和剤による薬害の軽減	100～200倍	—	—	銅水和剤に混用して散布			

※薬剤によって薬害発生の恐れがありますので、散布試験をして事前に薬害の有無を確認して薬剤散布をお願いします。

※とうもろこしには使えません。

【令和3年12月22日現在の登録内容に基づいて記載しています。】